

ひとつの祭壇がある

2025年8月10日

ヘブル人への手紙 13章9～11節
コロサイ人への手紙 2章8～23節
レビ記 10章～11章

序：キリスト者の生活の実践における勧めや警告
兄弟愛を勧め、不品行、食欲を戒める 1～6節
模範（初期の指導者、完全な模範＝イエス・キリスト） 7～8節
神への供え物 9～16節

I. 異なった教えに惑わされないように

行いによる救い（律法を守る） ↔ キリストの血による贖いへの信仰による救い
食べ物、飲み物についての規定（旧約、レビ記などに詳細）
それを信仰生活の中心に置こうとした異端 ↔ 恵みによって心を強くする
分派的ユダヤ教団の影響 ↔ イエス・キリストの救い

コロサイ 2・16～22 だれにも飲食のことで批評させてはならない
この世の幼稚な教え：行き過ぎた禁欲
用いれば滅びるもの（一時的）
人間の戒めと教え（ざるな、めうな、さわるな）
好き勝手な礼拝、謙遜、肉体の苦行（断食）
賢そうに見えるが、益とはならない

コリント I 6・12～13 キリスト者の自由
すべてのことが許されている、すべてが益にはな
らない、支配もされない
食物も腹もこの世限りで、神は両方とも滅ぼす

テモテ I 4・3～4 神が造られたものはみなよいもの、感謝して受ける時
捨てるものは何もない

II. 恵みによって心を強くする

救いは自分の行いのゆえにもたらされるものではない
与える側の厚意によって、受ける資格がない者が受ける賜物（贈り物）
キリスト・イエスを通して与えられる罪と死からの救い、体の復活、永遠の御国

ローマ 14・17 なぜなら、神の国は飲み食いのことではなく、義と平和と
聖霊による喜びだからです

↓
キリストを通して神が信じる者に与えてくださった

我らの祭壇、一つの祭壇

Ⅲ. キリストを信じる者の価値観

飲食に関する規定が中心には来ない理由 10～11節

旧約の贖罪の日のいけにえの扱い レビ 16・27

その血：罪のための供え物として、大祭司によって聖所の中に持って行かれた
残りの部分：宿営の外に持ち出し、その皮と肉と汚物を火で焼いてしまう
∴幕屋で仕える者は祭壇から食べる権利がない

罪のためのいけにえの肉を祭司たちが聖所で食べる規定 レビ 10・16～18
いけにえの血が聖所に携え入れなかった、その肉を食すべき

いけにえ：イエス・キリストのひな型

それにもかかわらず、いけにえのからだは宗教的な意義なし

であれば、キリスト信者はからだや飲食の規定を信仰生活の中心に置くことは
ない

Ⅳ. 一つの（我らの）祭壇

キリスト者の信仰生活の中心には祭壇がある

ささげ物（供え物）は動物ではない、贖い主イエス・キリスト

信じる者はイエスの血によってのみ聖所に入る

恵みによる永遠の霊的養い、祝福を受ける

近づくには信仰が必要不可欠（飲食の規定は不要）

Ⅴ. 結び

(1)もっともらしい、異なった教え（聖書を基準として判断）に引き込まれないよう
に、絶えず聖書を調べる 例：ベレアの聖徒たち 使徒 17・11

(2)私たちの礼拝の的は三位一体の神 ∴私たちの救いは神（父）の選び、御子の
贖い、聖霊の導きによったからである

(3)祭壇にささげる供え物は動物やほかの物質ではなく、ほふられて罪の贖いをなし
とげてくださったイエス・キリストその方である

(4)今は旧約の大祭司でなくても、ひとりひとりの信仰者が、信仰をもって、イエス
・キリストをささげ物として、罪の赦しを確信して礼拝をささげることができる